

入試情報

募集人員、出願要件、選抜方法などの詳細は、必ず最新の募集要項で確認してください。(山口大学入学者選抜要項は7月上旬頃、学校推薦型選抜Ⅰ募集要項は9月下旬頃、一般選抜募集要項は11月下旬頃に公表する予定です。)



農学部

募集人員

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
		前期日程	後期日程		
生物資源環境科学科	50	33	7	10*	若干名
生物機能科学科	50	31	9	10*	若干名

*生物資源環境科学科は“農業に関する学科”2名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

学校推薦型選抜Ⅰ(共通テストを課さない)の出願要件

学習成績、人物ともに優れ、高等学校長が責任を持って推薦できる者で、合格した場合、入学を確約できる者が出願要件となります。
*他にも調査書の学習成績の状況等、学科や対象ごとに要件があります。

帰国生徒入試の出願要件

日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者で、外国において2年以上継続して学校教育を受けた者などが出願要件となります。

選抜方法

	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
	前期日程	後期日程		
試験内容	大学入学共通テスト + 個別学力試験(理科、数学からいずれか1つ)	大学入学共通テスト + 個別学力試験(面接)	小論文 + 面接 + 出願書類	

過去3年間の志願倍率

<2023年3月現在>

入試年度	入試種別	生物資源環境科学科		生物機能科学科	
		募集人員	志願倍率	募集人員	志願倍率
令和3年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	1.4	10*	1.4
	前期日程	33	1.6	31	2.4
	後期日程	7	5.6	9	7.3
令和4年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	2.2	10*	3.2
	前期日程	33	1.5	31	2.0
	後期日程	7	8.1	9	4.8
令和5年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	1.5	10*	1.6
	前期日程	33	2.4	31	2.0
	後期日程	7	8.9	9	8.7

*生物資源環境科学科は“農業に関する学科”2名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

このリーフレットは農学部学生広報部員が中心となって作成しています。



お問い合わせ先
入試に関するお問い合わせは下記をお願いします。

山口大学農学部学務係
〒753-8515 山口市吉田 1677-1
TEL: 083-933-5811 FAX: 083-933-5812
E-mail: aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
入試情報ホームページ
http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/



山口大学農学部HP

食と環境の未来をつくる



農学部はこんな学部です!

農学は、農業や食品生産業が抱える課題を生物学・物理学・化学等の視点から解決し、人類社会の持続的な発展を目指す学問です。

農学はいくつもの顔を持っています。食料や健康、生命現象、環境等を脅かす問題を生物学・化学・物理学・地学・数学等を駆使して解決します。

学科の特徴

生物資源環境科学科

農業に関する諸問題の解決方法を合理的に導き出し、効率のかつ安全で持続可能な食糧生産の実現を目指して幅広い分野の教育・研究を行っています。



実験での土壌の観察



実習でのトマト苗の接ぎ木

講義では、植物の生理や栽培方法についてはもちろん、農地の土壌や気象、病害虫、食料の流通といった幅広い分野も総合的に学びます。さらに、学生実験や農場実習では農業を実践的に学び、理解を深めます。



田植えの様子



ブドウの袋掛けの様子



リンゴを用いた pHの実験結果

生物機能科学科

植物や微生物、動物のタンパク質の機能や先端バイオテクノロジーについて学び、人間の健康や環境改善に役立てる教育と研究を行っています。

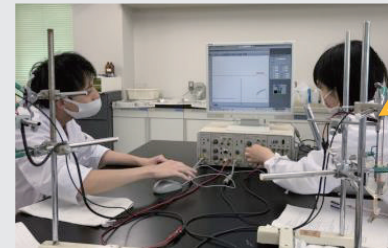


遺伝子組み換えのためのPCR操作



コンピュータを用いたデータ分析

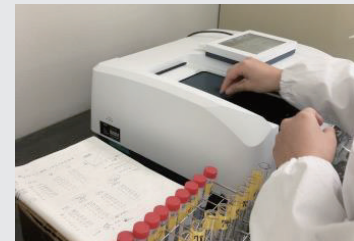
講義では、タンパク質の構造や機能、微生物・植物の生理機能など、生物・化学の専門的な内容を学びます。学生実験では、細胞や細菌への遺伝子導入、タンパク質やDNAの電気泳動などを行います。



筋収縮測定の様子



顕微鏡での細胞観察



タンパク溶液の吸光度測定

研究テーマ一覧

生物資源環境科学科

- ・作物の多収性・高品質性についての生理生態学的解析
- ・乾燥地など耕作不良環境でストレスに強い作物栽培
- ・植物の代謝物を利用した新しい育種法の研究開発
- ・野菜・花きのゲノム育種および植物工場栽培に関する研究
- ・果樹の諸形質・遺伝に関する研究
- ・植物病原糸状菌の感染機構に関する研究
- ・イノシン・クマ等の生態学的研究と保護・管理への応用
- ・ゲノム情報を応用した昆虫利用・管理技術開発に関する研究
- ・アジアにおけるシロアリの多様性維持に関する研究
- ・地域循環型経済（サーキュラーエコノミー）と食品ロスの研究
- ・副産物石膏の農業的利用
- ・土壌有機物の微生物分解に対する安定化機構の解明
- ・降水雲および降雪雲内の雲物理学の直接観測研究
- ・画像による植物生体情報解析
- ・温室や植物工場における環境制御技術の開発

生物機能科学科

- ・微生物の持つ特異な代謝機構の解析と応用
- ・微生物が行う酸化発酵の解析と利用
- ・微生物酵素の解析と有用素材生産への応用
- ・微生物の温度適応機構の解析と応用
- ・土壌微生物の機能開発と利用
- ・サンゴに共生する微生物の機能解明
- ・病原微生物の宿主への付着と定着
- ・植物の持つ新しい抗酸化物質の探索と利用
- ・植物代謝酵素の機能解析と有用物質生産への応用
- ・植物の香りの生成機構とその生理的役割の解明
- ・香りの機能性（動植物のフェロモンおよびアレロケミカル、ヒトの生理応答および嗜好性）に関する研究
- ・植物の光合成を調節するタンパク質の立体構造と機能の解析
- ・金属イオンの役割に着目した金属酵素反応機構の解析
- ・哺乳類神経筋システムの適応メカニズムに関する生理・生化学的研究
- ・昆虫食の健康機能性評価とアンチエイジング食品成分の探索
- ・植物の環境ストレス耐性機構の解明と応用

学生の研究紹介

農学部

生物機能科学科
4年
吉田 恵祐



植物の香りを改変する

私は遺伝子組換え技術を用いて植物の代謝能力の設計図を書き換えることで、その植物が本来作らない香り成分を人為的に作らせる代謝工学の研究を行なっています。植物の香りは、食品香料や健康維持のための機能性成分として利用されることから、この研究が私たちの生活をより豊かにしてくれると期待しています。



高校生へ一言

大学では、高校生までに学んだ知識を基礎として、さらに専門的な内容を積み重ねることで実践的な研究に活かすことができます。高校生の間に、将来を見据えてしっかりと基礎固めをしておくことが重要だと思います。



**大学院
創成科学研究科**

農業系専攻
博士前期課程2年
木寺 航大



産地で発生する食品ロスを減らす

日本では、多くの食品ロスが発生していますが、産地で発生する規格外の農産物等の推定量約178万tは統計に含まれていません。今後、国内の食料資源を有効に使う事が重要です。規格外農産物を継続的に利用するためには、さまざまな障壁があります。規格外農産物をビジネスとして取り組んでいる企業の現状と課題を解明しています。




高校生へ一言

農学部は、作物の栽培や土壌分析などの実験だけではなく、食と農に関する社会科学を研究する農業経済分野もあります。入学後は、幅広い学びを積極的に行ってください。



関連施設の紹介



附属農場



植物工場



中高温微生物研究センター

農学部には、キャンパス内にある「附属農場」や制御された環境で植物の栽培技術を開発する「植物工場」があります。また、農学部と関連の深い施設として、地球温暖化に起因する課題について研究する「中高温微生物研究センター」があります。

学科長からのメッセージ

生物資源環境科学科

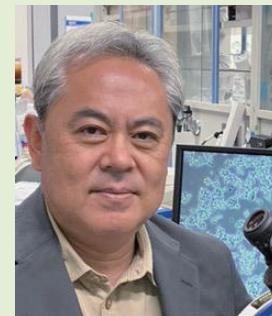
教授
執行 正義



生物資源環境科学科では、食料生産、生産環境の制御・保全、生産物流通などの幅広い農学を一通り学習する機会を提供し、スマート農業の推進やSDGsの目標達成に貢献できる人材を育成しています。美味しく見た目も素晴らしい農作物を世に出していくためには、農業生産者、農業関連団体・企業、行政機関が関係するフードサプライチェーンが大きな役割を果たしています。本学科を卒業すると、これに含まれる業界筋、農業生産法人、公務員（農業職）などに就職ができ、我が国の食料安全保障を担う専門職で活躍できます。日本農業に明るい未来を届けたいと思う皆さん、共に頑張りましょう！

生物機能科学科

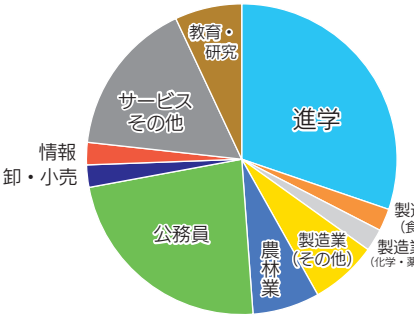
教授
井内 良仁



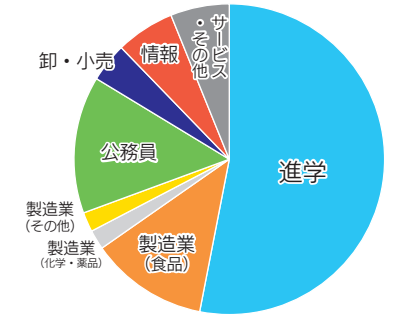
生物機能科学科では、生物が持つ驚くほど多彩な機能を、遺伝子、タンパク質、化合物の解析を通して解明することを目的とし、食、健康、環境に関する課題解決とバイオテクノロジーなどの技術開発に貢献できる人材の育成を目指しています。化学、生化学、微生物学、食品化学を4本の柱とする新しいカリキュラムに加えて情報科学と多彩な実験を重視し、生命のしくみの化学的理解から高度なバイオ実験技術の習得に到達できるように、教育が体系的に構成されています。卒業後には、食品・医薬品・化学・環境など、私たちの生活を豊かにする分野での活躍が期待されます。

卒業後はこんな未来が開けています

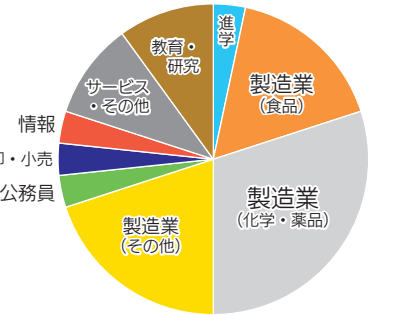
2022年度卒業・修了生



生物資源環境科学科



生物機能科学科



大学院

企業等例

製造業 (食品・農業)：霧島ホールディングス株式会社
 (化学・薬品)：科研製薬株式会社、三栄源エフ・エフ・アイ株式会社、ミヨシ油脂株式会社、クロレラ工業株式会社
 (その他)：株式会社エフピコ、宇部マテリアルズ株式会社
 農林業：山口県農業協同組合、水土里ネット山口

卸・小売：株式会社日本アクセス
 情報：デロイトトーマツアクト株式会社
 サービス・その他：JA西日本くみあい飼料株式会社
 公務員：山口県、福岡県、厚生労働省、植物防疫所
 教育・研究：県立高等学校（愛媛県、大分県）、岩手県生物工学研究所